

SEALDs KANSAI はなこさん

私が大阪府立高校の社会科教諭になったのは1977年の4月です。着任のとき、「大阪府立高校は、生徒たちが、他者の基本的人権（人間らしく生きていけること）を尊重すると共に自らの基本的人権を守る人間として成長していく場である」と教えられました。

そして、新人社会科教員研修では、「高校社会科の教育目標は、生徒たちが、社会の諸問題と真っ向から向き合い、真に国民主権を担い得る人間として成長していくことを手助けすることだ」と教えられました。私は、教育委員会なるものは文部省（現文科省）の通達を学校現場に上位下達するだけの機関と思っていたので、大阪府教委が実施する研修で、こんな「過激（民主教育に反対する立場の人から見れば左翼偏向的）」なことが研修されることに驚きました。が、よく考えてみて、これが当たりまえの教育だと得心したのです。

このような、「**他者の基本的人権を尊重すると共に自らの基本的人権を守り、社会の諸問題と真っ向から向き合い、真に国民主権を担い得る人間として成長していける場**」である**当たり前の学校**で学ぶ生徒たちが素晴らしい高校生にならないはずがありません。

かかる当たり前の学校は当然私立高校にもあります。そんな私立高校の1つで学んだのがSEALDs KANSAI はなこさんです。

はなこさんは、2015年11月4日のSEALDs KANSAI が主催した「自由と民主主義のための大阪緊急街宣アピール」<下記のURL（クリックして下さい）の記事に動画と全文があります>の中で次のように述べています。

<http://iwj.co.jp/wj/open/archives/274827>

『もう、苦しまなくていいんだよ』と学校の先生が教えてくれました。学校は、現に居場所のなかった私にとって、居場所を与えてくれました。」「こんな私でも生きていいんだと思えるようになったのは、たゆまない努力をしてきた教師集団と、そして学校教育のおかげです。」

こんな当たり前の学校で学んでいた高校生のはなこさんは、2008年10月、当時大阪府知事であった橋下徹氏に面会を求め、対談を実現させ、橋下知事の基本的人権（安心して十分な教育を受ける権利）侵害行為を堂々と批判したのです。はなこさんもまた、素晴らしい日本の高校生でした。（ちなみに、はなこさんの先輩は対談中に、橋下知事のあまりの「卑劣さ＝基本的人権をないがしろにする態度」に打ちのめされ心底情けなくなって泣いてしまいました。それを見たネトウヨは、自分勝手な高校生が知事にいいまかされて号泣したというデマを垂れ流すことで、自分たちも橋下知事同様に卑劣な人間であることを表明しました。）

なお、上述したような当たり前の学校など学校ではないと思っていた橋下徹氏は、2008年2月に大阪府知事になると、<何かに「優れた」学校（大学進学・スポーツ・芸術などなんでもよいが、とりわけ大学進学に優れた学校）だけがあればよい。「優れた」学校づくり競争に敗北（入学定員割れ）した学校は廃止>という政策を開始しました。「強いものだけが生き残る資格を持ち、弱い者が滅びるのは自己責任である」という基本的人権破壊の世界観に立脚する教育破壊政策が始まる中で行われたのが、はなこさんと橋下知事の対談でした。

橋下前知事が始め、松井現知事が継承継続している教育破壊（当たり前の学校が存続できないようにする政策）との闘いは現在も続けられています（私は2010年1月に教員を退職しましたが、その闘いを報告するニュースは今も受け取っています）。

2015年11月の大阪府知事選は、大阪の「教育破壊＝基本的人権破壊」をストップさせる闘いでもあるのです。だから、はなこさんも現在の高校生や将来の高校生のために闘っているのです。

<この文書は、「**日本の高校生は素晴らしい**」（下記URLをクリック）に掲載されているものです。>

<http://shiminhfiles2.cocolog-nifty.com/blog/2013/06/post-4408.html>